

おんだし
押出遺跡第6次発掘調査説明資料

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 平成27年11月23日

調査要項	
遺跡名(番号)	押出遺跡(遺跡番号 381-313)
所在地	山形県東置賜郡高島町大字深沼字押出
時代・種別	縄文時代(前期:約5,800年前)・集落跡
起因事業	東北中央自動車道(南陽高島~山形上山)に係る付替え水路工事
調査依頼者	東日本高速道路株式会社東北支社 山形工事事務所
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成27年11月2日~12月25日
調査面積	125m ²
調査担当者	主任調査研究員 水戸部秀樹(現場責任者) 調査員 岩崎恒平
調査成果(11月23日現在)	
検出遺構	盛土遺構
出土遺物	縄文土器・石器・木製品



図1 遺跡位置図(1/50,000)

1 調査の概要

押出遺跡は、「大谷地」と呼ばれる泥炭湿地帯の中に位置しています。現在は乾田が広がっていますが、昭和30年代頃までは舟を使って刈った稲を運搬する姿が見られたほど軟弱な土地でした。

遺跡の発見は、1971年に沼尻堀の掘削後の排土から土器や石器が拾い上げられたことが契機となりました。1985年からは国道13号建設工事を起因とした3カ年に及ぶ発掘調査が行われました。その結果、地表下約2mの地点から住居跡39棟、集石遺構が1基見つかりました(第2図)。中には「転ばし根太」と呼ばれる丸太材を基礎にもつ特殊な住居群も含まれます。遺物は、通常の遺跡では残りにくい有機質遺物、彩漆土器、木胎漆器などを始めとする数々の貴重な遺構・遺物が発見されました。後に主要な遺物約1,100点が国の重要文化財に

指定されたことから、その重要性がうかがえます。また、これらの出土品は、高島町の山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館に収蔵されています。

2011年からは沼尻堀排水路の改修工事を起因として、2カ年に渡る発掘調査が行われました。第4次調査では、堀の西岸部から4基の盛土遺構が見つかりました(第2図)。第5次調査の範囲である東岸部は、遺物の廃棄スペースが広がっており、生活区域からは外れていた場所だと考えられます。東側の拡張区からは径の大きい木材を利用した木柱群が見つかり、何らかの施設が存在していた可能性もあります(第2図)。遺物は第1~3次調査と同様に、多量の土器・石器、彩漆土器、木製品、縄などの有機質遺物が出土しました。

今回の第6次調査は、東北中央自動車建設に伴う水路付替え工事に起因して行われました。これまでの調査区の中では最も南よりの場所(第2

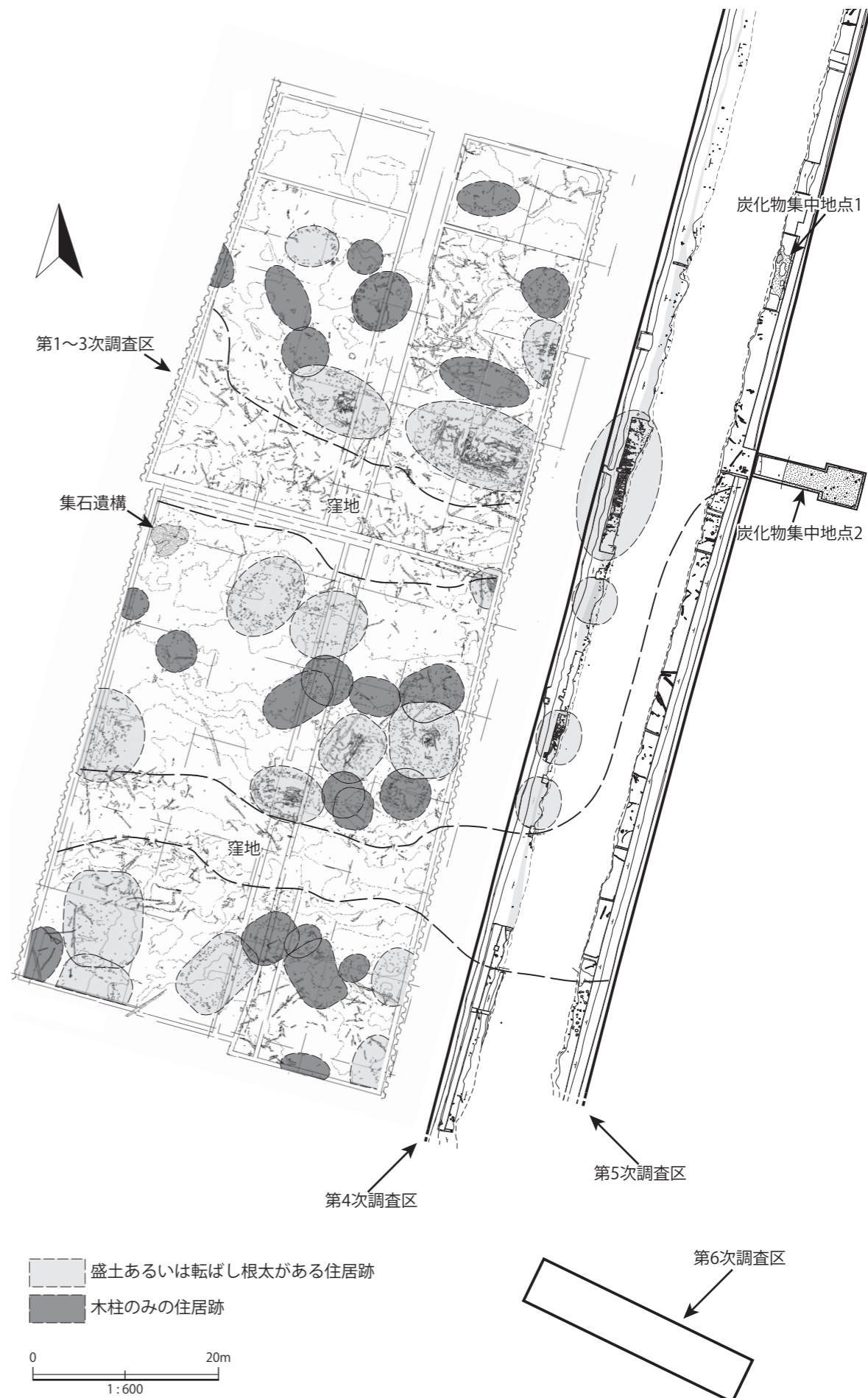


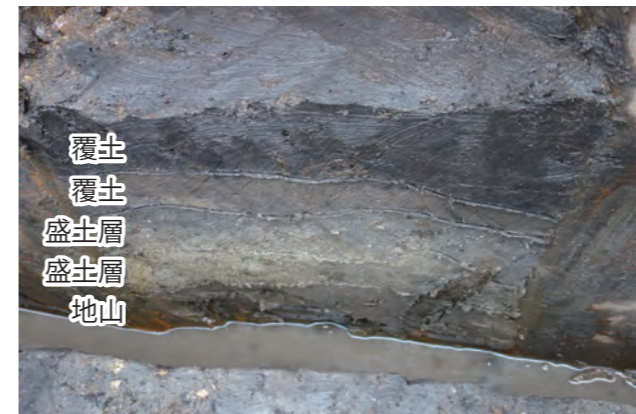
図2 第1~6次調査遺構配置図



第3図 盛土遺構上遺物出土状況 (1/125)



第4図 盛土遺構上遺物出土状況 (東から)



第5図 盛土遺構の断面写真 (北東から)

図) であり、残された遺構によっては、集落全体の構成を考える上で重要な調査になります。

2 見つかった遺構と遺物

多数の土器や石器が出土しているほか、盛土遺構が1基検出されました(第5図)。地山上に砂を盛り、その上に粘質土が盛り上げられています。盛土上面に残された多数の遺物は、当時の人々がこの地を去った状況のままです。盛土の中央部に比べ、周辺部から多くの遺物が見つかりました。盛土の中央部から周囲に遺物を投げ捨てた様子がうかがえます。現在のところ盛土上で何らかの建物が存在した痕跡は見つかっていません。盛土をどのように利用したのか今後の調査で詳しく調べることになります。

出土した土器は東北地方南部の土器型式であ



第6図 出土した石器 (左上:石鏃, 左下:石鏃未製品, 中央・右: 押出型ポイント)

る大木4式が多いようです。これまでの調査では北陸地方の刈羽式土器とされている土器や、関東地方の諸磯b式が出土しており、今回も出土することが見込まれます。石器では、石鏃、石鏃未製品、押出型ポイントなどが出土しています(第6図)。今後もさまざまな遺物の出土が予想されますので、丁寧に盛土を掘り下げていくこととなります。

3 まとめ

今回の調査区で見つかったのは盛土遺構の北半分であり、さらに南側へ向かって盛土遺構をはじめとした遺跡の範囲は広がることが分かりました。これまでの調査では竪穴住居や墓壇などは見つかっておりませんが、集落全体の構成を考える上では重要な成果が得られました。

参考文献

- 山形県教育委員会 1990 『押出遺跡発掘調査報告書』
- 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 2014 『押出遺跡第4・5次発掘調査報告書』
- 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 1996 『第3回特別展 縄文のタイムカプセル 押出遺跡』